

横須賀市廃棄物減量等推進審議会（第55回）議事概要

- 1 日 時 平成27年(2015年)1月29日(木)午後2時から3時55分まで
- 2 場 所 横須賀市役所本館3号館5階 正庁
- 3 出席委員 岩澤委員、 織委員、國分委員、小林委員、佐倉委員、佐藤委員、庄内委員
関矢委員、寺嶋委員、橋口委員、福本委員、藤田委員、 森委員、米村委員
- 4 事務局 資源循環部 田中部長
広域処理施設建設室 井上室長
資源循環総務課 谷課長、和田課長補佐、鈴木係長、菱沼主任、山崎、太田
資源循環推進課 古思課長
廃棄物対策課 西村係長
資源循環施設課 山口課長
リサイクルプラザ 佐藤館長
南処理工場 斎藤工場長
資源循環久里浜事務所 川島所長

5 傍聴者 1名

6 議事内容

開会

事務局が定足数である半数以上の委員の出席を確認し、会議の成立を報告した。
事務局が配布資料の確認を行った。

議事

(1) 委員長等の選任

小林委員長から、委員長辞任の申し出があり承認された。
委員の互選により、織委員が委員長に選任された。
委員長が米村委員を委員長職務代理者に指名した。

(2) ごみ処理基本計画の進行管理について

○資源循環総務課長 (資料1-1に基づき説明)

○織委員長　ありがとうございました。全体の排出量の推移ですとか、資源化率の話をしていただきましたが、質疑応答はまとめてしたいと思います。事務局の説明を先に進めたいと思います。基本計画の進行管理7頁でも、計画策定後に新たに生じた事項に、「小型家電のボックス回収を開始し」とありますけど、それについて、「資料1－2使用済小型家電リサイクル事業について」のご説明をお願いします。

○資源循環総務課長　（資料1－2に基づき説明）

○織委員長　ありがとうございました。引き続き平成26年5月から配信を開始した、「資料1－3横須賀市ごみ分別アプリについて」ご説明をお願いします。

○資源循環推進課長　（資料1－3に基づき説明）

○織委員長　ありがとうございました。これで資料1－1から3まで説明が終わりましたので、質疑応答に入りたいと思います。何か質問等、あるいはご意見がありましたら挙手をお願いします。

○岩澤委員　市民という立場で質問をさせていただきます。まず資料1－1の4頁、3再生利用（リサイクル）、市が講ずべき主な方策、①平成25年度を見ると、古紙リサイクル176,080kg、廃蛍光管は1,536kgとありますが、廃蛍光管は「kg」ではなく「本」ではないでしょうか。訂正をいただいたらと思います。それから、4その他、市が講ずべき方策、（1）主な周知・啓発事業、②ごみ分別パンフレットや収集カレンダーの発行で、平成25年度を見ると、パンフレットの作成が今までよりも随分増えています。何か意味があるのか教えていただきたいと思います。それから、6頁、2（1）収集・運搬計画、④事業系ごみの取り扱いの評価欄に、余計な字が入っているので削除していただきたいと思います。それと8頁に総合評価がございしますが、「総排出量は予定通り減少推移し、目標値に近づいているが、反面、資源化量と資源化率も同じように減少しているため、目標値との乖離が著しくなってきた。」とあります。資源化率は、資源化量を総排出量で割ったものですので、意味合いとしましては、資源化量が予測以上に減少して、結果として資源化率が減少して目標値との乖離が大きくなっている、だから資源化量と資源化率の見直しを行っていくと、いうようにしていただいたら、わかりやすいように思います。それから最後になりますが、12頁、「県内19市の資源化率と原単位」という表がございしますが、平成23年度を見ますと、横須賀市の資源化率は第3位で、三浦市が第4位であります。これが、平成24年度になりますと、三浦市が第2位で、横須賀市が第4位と、横須賀市は平成23年度と平成24年度を比較すると、0.8%下がっていますが、広域処理パートナーである三浦市は33.2%から45.5%でプラス12.3%になっています。理由が分かれば横須賀市の施策の参考になるのではないかと、という質

間でございます。

○織委員長　ありがとうございます。細かく見てくださっていて、よく数字データの誤りに気づかれたと思います。4頁はミスプリントですね。

○資源循環推進課長　個別にお答えさせていただきます。4頁の廃蛍光管1,536kgの単位が「本」ではないかというお話でした。これは「kg」で間違いありません。いろいろな形がありますので、「本」ではなく「kg」で処理委託しています。

○岩澤委員　平成24年度は「本」と書いていますが、単位を変えたということによろしいでしょうか。

○資源循環推進課長　おっしゃる通りでございます。それまでは「本」でしたが、平成25年度から「kg」にしています。

○織委員長　そうすると、1本あたり何kgとか計算しないと、前との比較ができないので、脚注に落とさないと分かりづらいと思います。

○資源循環推進課長　わかりました。次回からそのようにしたいと思います。それからもう一点、分別パンフレットが急に多くなっているというお話ですが、平成24年度は25,000部ということです。状況が変わりますので、パンフレットは概ね5年をめぐりに改訂版を作成しています。平成25年度が改訂の年にあたりました。その間の年は、不足分ですとか、予備として刷っております。平成24年度の25,000部は予備。平成25年度の221,000部は全面改訂をして、全世帯に配付したということでございます。

○織委員長　では、カレンダーの数と合っているということですか。

○資源循環推進課長　合っています。

○資源循環総務課長　6頁ですが、間違えております。余分な字は削除させていただきます。申し訳ございませんでした。次に8頁の総合評価ですが、岩澤委員のおっしゃる通りです。私どもの表現がおかしかったなので、修正させていただきたいと思います。

○織委員長　最後に、12頁の三浦市の資源化率が劇的に増えているのはなぜでしょう。

○資源循環総務課長　申し訳ありません。県の資料を抜粋しているため、これについては

調査させてください。三浦市、神奈川県に確認を取りまして、回答させていただきます。

○織委員長 平成24年度の段階では、燃せるごみが横須賀市に入ってきたことは影響無いということですか。

○資源循環総務課長 受け入れは平成25年度なので、違うと思います。

○織委員長 取り組みの結果ということですね。

○資源循環総務課長 三浦市に要因を確認したいと思います。

○織委員長 分かりました。ありがとうございます。他に資料1-1から3までで何かございますか。

○関矢委員 燃せるごみの関係、三浦市の関係でお聞きしたいことがあります。三浦市の可燃性一般廃棄物については、一昨年、の審議会でも、町内会・横須賀市・三浦市が協定で合意したと報告があり、昨年度は7,836トン焼却したということですが、三浦市のごみの受け入れについては、水分量やプラスチックが多いという話があったと思います。受け入れまでの改善方法や、組成分析は南処理工場でもやっていると思いますが、夏場の水けが多い時の組成分析、冬場の乾燥している時の組成分析なども含めて、お示ししたいと思います。それと、三浦市のごみの受け入れについて、一般廃棄物の処理料金を取っているのか、その辺も教えてほしいと思います。

○織委員長 まず、受け入れるにあたって組成分析をしているか、或いは、特徴があるかということと、処理料金の件についてお願いします。

○南処理工場長 横須賀市は、住民協定を締結しておりまして、プラスチック混入率湿ベースで5%以下ということが、焼却ごみの受け入れ条件になっております。そのことにより、平成25年度に先立ちまして、三浦市は、市民にごみダイエット大作戦アクションプログラムを呼びかけ、水切りの徹底とプラスチック混入率を減らすという取り組みを始め、今も継続して行っております。三浦市のごみ組成ですけれども、横須賀市は年4回の組成分析の平均で水分率が50%前後で、三浦市は現在60%前後ということで、平成25年度の受け入れ前よりも改善している状況です。受け入れの単価ですが、1kg15円で契約しています。

○織委員長 ありがとうございます。他に何かありますか。

○橋口委員 小型家電のリサイクル事業ですが、回収ステーションごとの回収量は把握されていますか。また今後、回収ステーションを増やす予定があるかどうか。もう一点は、レジ袋削減の取り組みについて、横須賀市も県の趣旨に賛同して取り組んでいると思いますが、その後、横須賀市で、具体的な取り組みを始められた事業所があるのかどうかということをお教えいただきたい。

○織委員長 小型家電とレジ袋についてよろしくをお願いします。

○資源循環総務課長 小型家電ですが、順次回収しておりまして、個々の数量や重量については数値を取ってはいません。各ステーションの状況については、収集した者に、多かった少なかったと聞く程度で、数量については詳しくは調べておりません。ステーションを増やすかということですが、16個の回収ボックスは国の実証事業で購入しました。あまり使われていない場所がありますので、このボックスを、コミュニティセンターや町内会館などに、期限を決めて移動させ、回収している状況です。

○織委員長 ありがとうございます。レジ袋についてお願いします。

○資源循環推進課長 レジ袋でございますが、私どもでは、どこが増えたか把握しておりません。県に確認したいと思います。

○織委員長 ありがとうございます。他にありますか。

○関矢委員 焼却灰の資源化の件ですが、灰は焼却灰と飛灰がございまして、飛灰は特定管理一般廃棄物ですが、横須賀市の場合は焼却灰に混ぜて、熔融スラグにしていると聞いています。他に焼成という方法があるらしいのですが、その方法だと灰は100%資源化されると聞いていますが、その使い道と、資源化に掛かる金額が分かれば、お示しいただきたいと思います。

○南処理工場長 横須賀市も平成23年の7月までは、三重県の民間施設で焼成処理をしていました。東日本大震災の後、放射能を含む焼却灰の関係で、受け入れが無くなりまして、現在は熔融処理をしています。単価につきましては、当時の契約単価で32,000円で行っていました。

○織委員長 トンあたりですか。

○南処理工場長 トンあたりです。横須賀市は主灰と飛灰を混合で貯留しておりますので、

混合割合で焼成処理の委託をしておりました。

○織委員長　　ありがとうございました。他に何かありますでしょうか。

○國分委員　　資料1-2の黄色いボックスですが、近所の中学生4-5人に聞いてみたところ、全く知らなかった。回覧でチラシは回っていますが、中高生は回覧を見ないので、分からないと思います。中高生にも、箱があることを知ってもらいたいと思いました。

○織委員長　　ありがとうございました。学生にも普及啓発をしてもらいたいということですが、何か取り組みをしていますか。

○資源循環総務課長　　ありがとうございます。携帯電話等を一番使うのは学生で、買い換えも早いと思います。学校には周知してなかったなので、今のご意見を聞いて、教育委員会と話をし、学校にポスター等を貼っていただくように動きたいと思います。

○佐藤委員　　資料1-1の処分量で、焼却施設が唯一増えています。資源化量も減っている中でどうして増えているのか、説明をしていただきたいと思います。もうひとつ、小型家電の裏頁、金属の資源化について、量は少ないのですが、金銀が3カ月で737g、パラジウムが15.8g、この辺の処理の仕方、業者に売っていると思うのですが、どのくらいの金額になるのか教えてほしい。

○資源循環総務課長　　まず焼却施設量ですが、先ほど簡単にご説明させていただきましたが、平成25年度から三浦市のごみが入りまして、それを含むため増えています。三浦市分7,836トンを引きれば、97,614トンになりますので、横須賀市分は減っております。次に小型家電の金などの処分ですが、小型家電は国が認定した再資源化事業者を引き渡しておりますので、そちらで再資源化をしています。例えば、高品位小型家電をkgいくらという形で売り払っていますが、金銀など個々の素材についての売り上げはありません。

○織委員長　　トータルの売り上げは出るのですか。

○事務局　　4月から12月までですが、トータルで73万円くらいです。

○織委員長　　ベースメタルも入れてですか。レアメタルと貴金属だけですか。

○事務局　　回収した小型家電をすべて認定事業者を引き渡して、売り払った金額です。

○織委員長 全部入れてトータルということですね。ありがとうございます。他に何かございますか。

○橋口委員 先ほどの質問に関連して、小型家電の回収ボックスの件ですが、16個しか無いので、それを巡回しているというように受け取ったのですが、もしそうであれば、今まで置いてあった所が、無くなることとなりますよね。そのお知らせは、徹底はされているのでしょうか。

○資源循環総務課長 一か所、資源循環久里浜事務所に設置したボックスは、持ち込みが無い状況ですので、それを巡回しています。ボックス自体は10万円以上するため、簡単に数を増やすことはできません。国の実証事業で100%補助金をもらって買っておりますので、それ以上は認めてもらえず、現在も16個を活用しております。資源循環久里浜事務所の設置を止めるという広報はしていません。町内会館やコミュニティセンターにつきましては、町内会の回覧で、「何日から何日まで回収し、その後はボックスを撤収します。」と周知をしています。

○織委員長 ありがとうございます、他にございますか。

○資源循環推進課長 先ほどの4頁の廃蛍光管の件ですが、補足をさせていただきます。平成24年度まで「本」で記載していますが、これは、委託業者との契約が「本」であったため、平成25年度は見直して、重さにしました。委託契約の内容が変わったということがございます。

○織委員長 ありがとうございます。引き続き、ご意見ご質問があると思いますが、まとめてお伺いするので、次の資料2の説明に移りたいと思います。それでは、横須賀市ごみ処理施設の整備状況について、第54回審議会以降の進捗状況を含めてどうなっているか、事務局の説明をお願いします。

○広域処理施設建設室長 (資料2-1に基づき説明)

○織委員長 ありがとうございます。引き続き資料2-2のご説明をお願いいたします。

○南処理工場長 (資料2-2に基づき説明)

○織委員長 ありがとうございます。それでは、ごみ処理施設の建設に関して、何かご質問ご意見等ありますでしょうか。大きな箱物の建設で、入札が終わったばかりということ

ですが、入札効果がかかなり出ているということになりますね。

○広域処理施設建設室長　今回、応札が2社ありまして、予定価格227億のところ、196億で、31億円の差金があるのですが、先ほども、寺嶋委員とお話をさせていただいたのですが、今回、建設の単価が非常に高くなっています。今までトンあたり4,000万くらいで出来ていたのですが、今回、これを単純に割り返しますと、5,400万ということで、建設資材の高騰、人手の賃金等、影響が出ているのでは、というところでございます。

○織委員長　ありがとうございます。他に何かありますか。後でまた伺いますので、ごみ処理基本計画の改訂について説明をお願いします。

○資源循環総務課長　（資料3に基づき説明）

○織委員長　ありがとうございました。ごみ処理基本計画を、平成29年度から平成33年度の計画に改訂するということでした。何かありますか。

それでは、ご質問ご意見は後でまとめてということで、小動物死体処理事業における運用変更及び手数料改定について、事務局の説明をお願いします。

○資源循環推進課長　（資料4に基づき説明）

○織委員長　ありがとうございます。ペットも家族と一緒になので、返骨を希望される方が大変多いのではないかと思います。今まで通り一律でやっていたのでは、割に合わず大変になってきたということですが、何かご質問ご意見等ありますでしょうか。

○國分委員　専用炉が無くても、ペットを受け入れているという市は、どこでどのようにしているのでしょうか。

○織委員長　それは、私も横須賀市に伺ったのですが、この場でも説明をお願いします。

○資源循環推進課長　申し訳ありません。質問の内容ですが、専用炉がない市はどのようにしているのかということですか。

○國分委員　専用炉がないのにペットを受け入れている。例えば、逗子市は全て×になっていますが、鎌倉市はペットを受け入れている。

○資源循環推進課長　専用炉がない場合は、ごみの焼却施設と一緒に処理しているという

ケースがございます。

○織委員長 横須賀市のように分けて返骨している市もあるのですか。専用炉がないのに一緒に燃やさず、返骨している市もありますか。

○資源循環推進課長 専用炉がなければ市で処理できませんので、その場合は、金額的には高くなりますが、民間の業者さんをご紹介していると把握しています。

○織委員長 持ち込み料の比較表がありますが、ばらつきがありますね。平塚市は5,000円になっています。

○資源循環推進課長 おっしゃる通り、ばらつきがございます。

○米村委員 今回の処理手数料のことなのですが、平塚市の場合は、持ち込みで5,000円、収集すると8,000円となっています。これは合理的だと思います。つまり収集手数料が3,000円で、5,000円は処理費用だなど考えられるのですが、横須賀市の場合は、火葬手数料は収集手数料にプラスして徴収されるのでしょうか。

○資源循環推進課長 収集手数料とは別ということがございます。収集手数料は、今回3,000円になります。2頁の（2）の改定の概要がございますが、①は火葬手数料のみの額になります。

○米村委員 大型動物の場合、合わせて8,000円ぐらいになりますよね。このくらいの金額になると、不法投棄がとても心配になる。その辺についての考え方はどうされていますか。

○資源循環推進課長 先立っても不法投棄の事例がございました。心配ではあるのですが、ご家庭で何年も飼っていたペットとなりますと、家族と同じというふうに考えていますので、山の中に捨てられることは、あまり想定しておりません。

○小林委員 収集にしても火葬にしても、相当の経費がかかっているようですが、手数料はかなり下回って設定されていますが、実績と手数料はどういう関係で決められているのでしょうか。

○資源循環推進課長 金額の決め方でございますけれど、一つは受益者負担率を念頭に置き、設定をいたしました。火葬にかかる経費は、確認して、後ほどお答えします。

○佐藤委員 実是小動物はうちでやっているのですが、月間にだいたい500から600体で、半分がペットです。8時半から4時で、一基でとても間に合わない。

○織委員長 ありがとうございます。値上がりすれば、その辺は落ち着くのですかね。

○佐藤委員 他のごみが減っているのに、小動物の処分量が減っていないということは、ペットが増えているということだと思います。

○織委員長 ペットの焼却の問題は、今後大きな経費負担になると思います。値上げしても安いということかもしれませんね。

○関矢委員 小動物の関係は、持ち込み手数料を含めて議会でも決まっているので、多くは言いませんが、小動物処理実績の中で、有料と無料とありますよね。有料の収集が659体で持ち込みが3,195体、無料の収集が1,857体で持ち込みが2,174体、動物管理所の無料は分かりますが、無料の収集とか無料の持ち込みは、どういうことなのかお聞きしたいと思います。

○織委員長 ご説明よろしいでしょうか。おそらく、野良猫やハクビシンだと思いますが。

○関矢委員 1,455体が外来生物ですが、その他の分は、どこから来て誰が持ち込むのですか。交通事故とかは無料ですね。それから遺灰はどのように処理されているのでしょうか。

○織委員長 佐藤委員説明できますか。

○佐藤委員 持ち込む人は、当然、灰も持ち返りたいということですが、それだけを燃やすことは難しいので一緒に燃やしている。灰は翌日取りに来る。本当に愛着心が強い人は、焼き上がるまで待っている。

○織委員長 灰も含めて事務局いかがでしょうか。

○資源循環推進課長 ペットの場合は骨をお返ししている。それ以外の骨に関しましては、焼却工場再度焼却しているという形になります。

○織委員長 もう一度焼却炉に入れるということですか。

○資源循環推進課長 そうです。先ほどの小林委員のご質問で、変更した場合の火葬手数

料でございますけど、現在は、火葬につきましては、2,060円いただいております。この経費に対する割合は約65%になります。それから、値上げをしますと、だいたい平均的な火葬手数料が2,900円になりまして、受益者負担は92%程度になります。ほぼ経費をいただけるという形になります。

○織委員長 他に何かありますか。

○関矢委員 無料収集の関係ですが、先ほどのお話の通り、もう一度南処理工場で処理するのですね。もともと死んだ小動物は、一般廃棄物の取り扱いになると思いますので、なぜそういう手間をかけるのか。動物愛護団体の方がいれば、怒られてしまいそうな議論です。また、火葬中に扉を開ける作業員が、火傷など怪我をするリスクを負いますから、そういうことも含めて、検討したらいいと思います。

○資源循環部長 ありがとうございます。これまでの歴史がありまして、以前一般廃棄物の扱いをしていたのですが、動物愛護団体から改善するように言われ、小動物の遺体と呼ぶようになりました。また南処理工場では協定がございまして、当時から小動物については、燃やすというお話はしていませんので、そういう意味でも新たに別の手続きがいりますので、公郷町の焼却場が稼働している限りは、今の体制で、死獣も含めてペットと一緒に焼かせていただこうと思っています。

○関矢委員 南処理工場の件は知りませんでした。それから、ごみ処理計画改訂の関係ですが、基本計画の概要の基本理念「未来へつなぐ“循環都市よこすか”の創造」で、「発生抑制」「再使用」「再生利用」「熱回収」「適正処分」と上げていますが、資源化率が悪いということですが、熱回収と資源化率の関係について、熱回収を資源化率に入れられるのか、国の方針があるのかどうかお尋ねしたい。それから、横須賀ごみ処理施設の整備状況の、不燃ごみの関係で、長坂の計量脇に造ると思いますが、この処分量が平成25年度の実績で20,000トン、年間220日とすると、週5で割ると20トンから30トンになると思いますが、今までは、サイコロ状にまとめて搬出をしていましたので、バラ積みになって、新しい施設で溜め置き出来るのかどうか、その辺の考え方を伺いたいのと、当面の間、南処理工場に持ち込むということですので、考え方を教えてほしい。

○織委員長 ありがとうございます。熱回収を資源化に入れるかどうかの件についてお願いします。

○資源循環部長 資源化率ですが、表によると、平成23年度に34.7%、平成24年度に33.9%ということで、三浦市との比較があると思うのですが、資源化率は、人口によって相当

変わると言われています。平成23年度、全国の人口10万人から50万人未満の都市で横須賀市は8位です。1位が東京都小金井市47.9%、2位が鎌倉市、3位から7位は、東京都府中市や、国分寺市が入っています。9位は朝霧市、10位東村山市となっていますが、40万人規模の横須賀市で、34.7%は誇らしい数値であります。特に、資源回収を地域にお願いしまして、資源回収協同組合さんと一緒になって市を上げて実施しているので、34.7%という数字が出せたと思っています。確かに資源物自体は下がっていますが、紙が減っている中で善戦していると思っています。熱回収については、資源循環総務課長お願いします。

○資源循環総務課長 熱回収は資源化率に含めていません。資源化率につきましては、基本計画の27頁に42%と記載がありますが、その下に矢印がありまして、市民・事業者への分別啓発や、剪定枝の資源化、不燃ごみ等からの金属回収ということで、資源化率の増を考えていて、熱回収は入っていません。

○織委員長 ご指摘のように、議論の余地があると思います。次の計画で熱回収をどのように考えるか、特に震災以降エネルギー問題が切実になっている中で、火力発電に頼るわけにもいかない。こういったものがどのように利用できるか、議論の余地はあると思います。

○國分委員 今、紙が少なくなっているという話がありました。うちの町内でも、新聞を取っている人が減っています。資源回収の日も新聞は少なくなっています。

○資源循環総務課長 今の資源回収の43%が新聞です。1世帯あたり0.86部、1部に達していない状況です。インターネットの普及によってそうなっていて、紙全体としても4.3%減になっています。

○南処理工場長 先ほどのご質問で、不燃ごみの量の捉え方が違っていらっしやっただので、10頁をご覧ください。平成25年度処分量を見ていただきたいのですが、20,000トンとお話がありましたが、減容固化施設の処分量は5,724トンとなっていて、年間で割り返すと、日量にしても十分ストック出来る容量となっています。過去のデータを調べまして、最大の搬入量を積み置き出来るストックヤードを設計しましたので、ご指摘のようにごみがあふれてしまうことはありません。

○関矢委員 その日に出すのではなく、積み置きするのですか。

○南処理工場長 基本は、搬入は積み上げて保管して、搬出は搬入が無い時に行うよう考えています。

○佐倉委員　ごみ分別アプリなのですが、大変結構なことだと思いますが、実際に私は、ガラケーを使っておりますし、家族全員ガラケーです。また、昨年の冬に、新しい分別パンフレットをいただきました。ごみを出す時、確認したい時があるのですが、非常に分かりづらいです。アプリのように絵で見えるようになれば分かりやすい。パンフレットをもっと分かりやすくするか、それとも、高齢者に優しく分かりやすい物が必要だと思います。実家の両親がどうやって捨てるのか電話で聞いてきて、パンフレットを見て教えているのが実態なので、アプリの若者とは別に、工夫していただけるとありがたいと思います。

○織委員長　ありがとうございます。高齢者対策は重要だと思います。今のパンフレットを分かりやすくすることは必要ですね。アプリはガラケーでは使えないのですか。

○資源循環推進課長　スマートフォン用でございます。全国的にもそうですが、横須賀市は少子高齢化ですので、高齢者用の物も必要だと思います。例えばパンフレットの燃せるごみの頁ですが、絵があって分かりやすいと思っております。字の大きさとか、その辺を工夫したいと思います。

○織委員長　高齢者をターゲットにして、印刷に入る前に見ていただくことが必要かもしれませんね。他にございますか。まだ、発言されていない方がでしょうか。

○藤田委員　これは審議会ですから、決定ではなく審議するということで資料が出ているということですが、まず、小動物は骨を返却する必要はない。そんなに可愛かったら民間に持って行けばいいのであって、返却は必要ないです。うちのペットは豚なのですが、どこでも焼かず最後は産廃です。100kgくらいあるが、可愛いからそういう処分をします。可愛いから自分で処理するべきで、市に持ち込んだら返却はいらないと思います。一つの意見です。それから、先ほど部長が言われたように、資料1-1の12頁、この比較表はありがたいのですが、上位になるのは人口が少ない所ばかりです。私が資源化率を見る時には、横須賀市より人口が多いか同等の市を見ます。そうすると、平成23年度は横須賀市が1位で藤沢市が2位です。だいたい人口が同じですが、もっと多い市、相模原市、川崎市、横浜市はもっと下です。小さい市ほど資源化しやすいので、横須賀市は大健闘していると思います。また、先ほどの新聞が少なくなったという件ですが、私が調査したマンションは250軒近くのうち、新聞を取っているのは47軒でした。このように新聞は減っています。読売新聞も朝日新聞もすごく減っています。朝日で前年度比12%発行部数が減っている。読売でも7から8%減っています。先ほども言いましたが、小動物は返骨なし、資源化率の資料は、同じ人口以上の市で作ったらと思います。審議会ですからこのような意見でいいですね。

○織委員長　貴重なご意見だと思います。資料の件ですが、同じ40万都市で順位を作ると

分かりやすいです。次回以降参考にしていただければと思います。返骨のことは別途議論してもよさそうだと思います。私は、持ち込むのが便利ならば、市がビジネスとしてもっと高い値段を取るという手もあるという気がしております。議論はできると思います。

○福本委員 資源回収のことですが、うちの方は、藤田委員と横須賀市で一番早く始めました。現在の量を見ていると、10年前の半分ぐらいになっています。一番減っているのが、新聞、雑誌で、その他はあまり変わりありません。うちは資源回収の実施団体で、私達の活動費をいただいているのですが、活動が苦しくなってきました。それと、うちの方は信号が無いので、行儀の悪い車がたくさん通りますが、お金にならないような大変な物を置いていかれたりして、余分な出費があります。

○森委員 私は商店街の代表で来ておりますが、どこもいろいろな形でレジ袋の削減に取り組んでいるとは思いますが、買う側の方に、マイバックを持ってきていただくという形が徹底されないと、どうしても袋が必要になることが多いです。我々が取り組もうとしていることに対して、応えてもらいにくいところがあります。

○佐倉委員 今の意見に対してですが、袋を持って行かない人ですが、スーパーの袋は我が家は生ごみを入れる袋になっています。ごみ処理に活用したりしていて、無駄にしているわけではありません。ですから全てが無駄だということでは無く、有料の所でポイントをあげない等もありますが、それはそれでいいと思います。無料でくれているから資源が無駄というわけではなく、ごみ袋を買わないわけですから、私は、無駄に捨てるというふうに決め込まなくてもいいと思います。

○織委員長 一つのご意見だと思いますが、事務局何かありますか。

○資源循環推進課長 レジ袋は非常に難しい問題だと思います。世の中の流れといたしまして、出来るだけもらわない用意や、始めから出さないスーパーもございます。なるべくマイバックを持って行くというのは、そういう方向だと思いますけど、委員がおっしゃったように、ごみの袋に使っていることもあります。余ってしまうという部分もありますので、県もレジ袋の削減を進めていますけど、レジ袋は、なるべくもらわないようにして、いただいたものに関しては有効利用する、ということだと思います。

○織委員長 ありがとうございます。庄内委員何かありますか。

○庄内委員 二つほどあります。一つは、ごみの減量はいいい方で進んでいますが、町内会としては、毎年助成金が下がってきている。たかが1万円と思うかもしれませんが、町内

会を運営していく中では、非常に痛い状況です。佐藤委員と話しをしたら、人口が減っているからということになりました。もう一つは、航空写真を見ながら施設の整備状況の計画を伺って、これに対しての反対運動が起きているのが、気になるところです。東日本大震災の時も、横須賀では対応しなくて、自分としても恥ずかしい思いをしていました。今回も計画に対して反対運動が起きている。場所から言っても、反対する必要はないように思うのですが、その辺は何が原因で反対が起きているのでしょうか。

○織委員長 住民の反対運動ということですね。

○広域処理施設建設室長 今、調停の最中ございまして、申立人の方は、自分達の生命財産が脅かされるから、造らないでくれということをおっしゃっています。我々としては、先ほどもご説明しましたが、環境アセスメントの手続きを取って、環境に影響が無いということでした。今回の新しい処理施設は、我々が知っている限り、煙突から出る排ガスの基準については、日本一厳しい基準を持っております。通常の空気中よりも、1万分の1ぐらいしか現状と比べて影響が無く大丈夫なのですが、何回も出前トークや町内会説明に行っていますが、なかなか御理解がいただけない状況です。行政としては法的手続きをきちんと取ってやっていますので、これを止めることは無く、逆にこれ以上伸びてしまいますと、南処理工場で50億かけて延命処置をしておりますので、その方が、住民負担が大きくなってしまいます。市長からも一刻も早く稼働するように言われていますので、その部分は曲げずにやっていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

○庄内委員 何とか早く納得していただいて、計画通りにいっていただけるようお願いするしかないと思っております。頑張ってくださいたいと思っております。

○織委員長 ありがとうございます。以上を持ちまして議事を終わらせていただきたいと思っております。みなさんのご意見も聞くことができました。事務局より今後の予定をお願ひします。

○事務局 本日ご意見いただいたことを、議事概要にまとめさせていただきます。出席された委員全員に内容をご確認いただいた後に、横須賀市のホームページ等で公開をさせていただきます。議事概要案は作成次第、各委員宛てに送付いたしますのでご確認をよろしくお願ひいたします。なお、次の審議会ですが、任期中の平成27年9月までの開催につきまして、27年度に入って必要に応じて、織委員長と御相談をして、必要がありましたら開催を決めさせていただきます。また、平成27年10月以降につきましては、先ほどご説明しました通り、基本計画の改訂について、諮問及び審議を中心にさせていただく予定でおります。以上です。

○織委員長　本日はお疲れ様でした。小林委員、長い間本当にありがとうございました。
これも持ちまして横須賀市廃棄物減量等推進審議会を閉会したいと思います。

閉会